

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

November 11, 2013 No.1

JACET 関東支部ニューズレター (WEB版) 刊行に寄せて

支部長 木村松雄 (青山学院大学)

JACET 関東支部ニューズレター (WEB版) 第1号をお届け致します。関東支部ニューズレター委員会委員長の高木亜希子先生 (青山学院大学) と副委員長の下山幸成先生 (東洋学園大学) を初めとする多くの先生方のご尽力に衷心より御礼を申し上げます。

既に「2012年度関東支部学会誌 (No.9)」(2013年3月31日発行)にてご報告の通り、「関東支部学会誌」は本年度(2013年度)より「関東支部紀要」と名称を改め、研究発表掲載の役割として刊行することと致しました。昨年度までは研究発表と年次報告を掲載しておりましたが、学会内部でそれぞれの機能性を高めるために役割を明確に区分する必要性が高まり、慎重に協議を重ねた結果です。

この措置に基づき、新たに支部ニューズレター委員会を立ち上げ、年次報告は「JACET 関東支部ニューズレター」としてPDFをWEB上に掲載することと致しました。委員長、副委員長は他の重責を兼務しての就任となりますが、これまでの完成度の高いお働きに鑑み、敢えて御願ひ申し上げた次第です。時代を担う若さと豊かな発想をお持ちのお二人の活躍に大きな期待が寄せられています。

2020年東京オリンピック開催決定(2013年9月)を受け、今後国際的な社会の動きと連動して英語教育に関する本格的な改善と提案が多く成されることと推察致しますが、学会に寄せる社会

からの期待と要請もさらに大きなものとなってゆくことが想定されます。この社会的要請に応えるためには、質の高い研究の推進を支援し発表の機会を提供・保障・維持することと、堅実な学会運営と次年度の活動に繋がる客観性の高い記録が不可欠なものとなり、「関東支部紀要」と「関東支部ニューズレター」は車の両輪として重要な働きを担うことになろうかと推察致します。

本号の刊行を機に、JACET 関東支部がさらに大きく前進しますことを心から願っております。会員の皆様のご指導・ご協力を切に御願ひ申し上げます。

目次

- ・ 巻頭言
支部長 木村松雄 p.1
- ・ 支部大会報告
支部大会運営委員長 山口高領 p.2
- ・ 第1回支部総会報告
支部事務局幹事 高木亜希子 p.2
- ・ 月例研究会報告
月例研究委員会委員長 藤尾美佐 p.4
- ・ 青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会報告
支部事務局幹事 高木亜希子 p.5
- ・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ
支部紀要編集委員長 伊東弥香 p.6
- ・ 事務局だより
支部事務局幹事 高木亜希子 p.6

支部大会報告

支部大会運営委員長
山口高領（早稲田大学）

JACET 関東支部の web (<http://www.jacet-kanto.org/>) には、2013 年の関東支部大会を含め、これまで行われた全ての支部大会のプログラムが掲載されております。

2013 年の大会テーマは「英語教育と日本の CEFR」でしたが、300 人ほどの会員の皆様にご参加いただき大変盛況でした。基調講演は、青山学院大学の榊原英資先生をお呼びし、「日本の翻訳文化と英語教育」についてお話を頂きました。全体シンポジウムは大会テーマをめぐって討論が行われました。討論者は、投野由紀夫先生（東京外国語大学）、吉島茂先生（東京大学名誉教授）と吉田研作先生（上智大学）でした。他に、3 つのシンポジウム、11 の研究発表、4 つの事例研究、賛助会員発表が 1 つありました。

来年度も、6 月に青山学院大学で支部大会開催が予定されています。関東支部大会という名称ではありませんが、他の支部の方も発表応募申し込みも含めて、参加が可能です。

私は、支部大会運営委員長をここ数年担当しておりますが、会員の皆様のためにお役に立てればと思い、他の支部大会運営委員の先生方にご協力を頂きながら、いろいろと準備をしております。私一人では限界があり、いつも支部長をはじめ、運営委員の皆様にご助けをいただいておりますが、このニューズレターをご覧になった会員の皆様におかれましても、小さな提案でも結構ですので、是非ご意見をお寄せいただけたらと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第 1 回支部総会報告

支部事務局幹事
高木亜希子（青山学院大学）

2013 年 6 月 16 日（日）に、青山学院大学 17 号館本多記念国際会議場に於いて、2013 年度第 1 回支部総会が開催されました。支部総会では、2012 年度の事業報告と 2013 年度の事業計画の報告が行われました。以下に報告内容を記載いたします。

■2012 年度事業報告■

I. 大会、セミナー等の開催（1 号事業）

(1) 支部大会の開催

名称：2012 年度関東支部大会

日時：平成 24 年 6 月 10 日（日）

場所：横浜国立大学

規模：250 名弱

(2) 支部講演会の開催

名称：青山学院英語教育研究センター・大学英語教育学会（JACET）関東支部共催英語教育講演会

日時：①平成 24 年 4 月 14 日（土）

②平成 24 年 9 月 8 日（土）

③平成 25 年 1 月 12 日（土）

場所：青山学院大学

内容：

- ①笹島茂（埼玉医科大学）「CLIL を考える一言語教育の発想を変える可能性について」
- ②廣森友人（明治大学）「自律した学習者を育てる英語指導を考える」
- ③高山芳樹（東京学芸大学）「訳読オンリーから抜け出す高校英語授業モデル—同僚問題・教科書問題への処方箋—」

規模：50~80 人

(3) 支部研究会の開催

名称：JACET 関東支部月例研究会

日時：①平成 24 年 5 月 12 日（土）

②平成 24 年 7 月 7 日（土）

③平成 24 年 12 月 1 日（土）

場所：青山学院大学

内容：

- ①近藤由紀子（一般財団法人グローバル人材開発理事）「グロービッシュとは」
 - ②高梨庸雄「逆転の発想：落ちこぼれ（落ちこぼし） そうな学習者は指導法の宝庫」
 - ③小林ひろみ「英作文で何を狙うのか」
- 規模：50人

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

- (1) 『関東支部学会誌』第9号の刊行
名称：『関東支部学会誌』第9号（英語名：*JACET-KANTO Journal*）
日時：平成25年3月31日
発行部数：1150冊

III. その他（5号事業）

- (1) 支部総会の開催
名称：2012年度第1回、第2回関東支部総会
日時：①平成24年6月10日
②平成24年12月1日
場所：①横浜国立大学 ②青山学院大学
目的：①2011年度の支部の活動報告、2012年度の支部の活動計画
②2013年度の支部の活動計画、予算案および人事案の審議
- (2) 支部役員会の開催
名称：関東支部運営会議
日時：平成24年4月14日、5月12日、7月7日、9月8日、10月6日、11月10日、12月1日、平成25年1月12日、3月9日
場所：青山学院大学
目的：支部の運営における審議、計画の立案

■2013年度事業計画■

- I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）
- (1) 支部大会の開催
名称：2013年度関東支部大会
日時：平成25年6月16日（日）

- 場所：青山学院大学
- 規模：約250名
- (2) 支部研究会の開催
名称：関東支部月例研究会
日時：①平成25年5月11日（土）
②平成25年7月6日（土）
③平成25年11月9日（土）

場所：青山学院大学

内容：

- ①中邑光男（関西大学）「『専門科目教育』＋『英語教育』＝「？」－マイクロソフト社でプレゼンする商学部学生を指導して－」
 - ②Kyle K. Yee（楽天株式会社）“Englishnization of Japan: Education Meets Industry Part II”
 - ③詳細未定
- (3) 支部講演会の開催

- 名称：青山学院英語教育研究センター・大学英語教育学会（JACET）関東支部共催英語教育講演会
日時：①平成25年4月13日（土）（終了）
※年に5回開催予定

場所：青山学院大学

内容：

- ①高木亜希子（青山学院大学）「英語教育における質的研究の理論と実践」
第2回以降、詳細未定

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

- (1) 『JACET 関東支部紀要』第1号（『JACET 関東支部学会誌』改め）（通算第10号）
日時：平成26年3月25日
規模：約1200冊

III. その他（5号事業）

- (1) 支部総会の開催
名称：2013年度第1回、第2回関東支部総会
日時：①平成25年6月16日

②平成 25 年 12 月

場所：青山学院大学

目的：①2012 年度の支部の活動報告、2013 年度の支部の活動計画

②2014 年度の支部の活動計画、予算案および人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：平成 25 年 4 月 13 日、5 月 11 日、7 月 6 日、9 月、10 月、11 月、12 月、平成 26 年 1 月、3 月

場所：青山学院大学

目的：支部の運営における審議、計画の立案

月例研究会報告

月例研究委員会委員長

藤尾美佐（東洋大学）

■月例研究会 5 月報告■

日時：2013 年 5 月 11 日（土）15:00-16:20

場所：青山学院大学 11 号館 3 階 1134 教室

題目：「専門科目教育」＋「英語教育」＝「？」
－マイクロソフト社でプレゼンする商学部
学生を指導して－

講師：中邑光男（関西大学）

月例研究会では、新たな試みとして、実業界や他支部からもスピーカーを招聘することとし、その一環として、今回、関西大学商学部の中邑光男先生にご講演をいただいた。

関西大学商学部では、「英語に強いプロアクティブ・リーダーの育成」を目標に、BLSP (Business Leader Special Program) というユニークなプログラムが立ち上げられ、小クラス編成で学生を指導し、マイクロソフト本社で英語によるビジネスプレゼンテーションを経験させるという試みがなされている。本講演では、1) プログラムの概要、2) 専門科目教員と英語教員とのコラボレーシ

ンのプロセスと課題、3) 学生の到達度と今後の課題を中心に、さまざまなエピソードを交えながら、具体的な内容をお話いただいた。

このプログラムでは、学生は、2 年生から英語プレゼンテーションの基礎を学び、面接に通った 3 年生だけがマイクロソフト本社でのプレゼンに参加できる。3 年生になるとまず、専門科目教員の指導のもと、日本語で原稿を書き、その後英語教員による指導のもと、英語原稿の作成に入る。この日本語原稿の作成段階での論理構成 (Conclusion-first など) は特に重要で、専門科目教員とのコラボレーションが課題となる場面である。また、その後の英語原稿の指導段階では、添削ではなく、1 名あたり 150 箇所程度のコメントを書き入れ、それを学生に修正させるというプロセスを何度か繰り返す。これは、学生自身の言葉で原稿を作成させるためである。「学生が英語を、外国語としてではなく、自分の言葉として発表できるまで追い込む」という演者の言葉は、特に印象深かった。

中邑先生のご講演は、内容的にも大変充実していたが、スピーチもテンポよく、笑いもあり、またディスコース・マーカ－の使い方が圧倒的に上手く、まさしく、「内容も言葉もどちらも大切」という講演内容を体現したものだだった。

■月例研究会 7 月報告■

日時：2013 年 7 月 6 日（土）15:00-16:20

場所：青山学院大学総研ビル 10 階第 18 会議室

題目：Englishnization of Japan: Education
Meets Industry Part II

講師：Kyle Yee（楽天株式会社）

楽天株式会社は、その目覚ましい業績とともに、社内公用語英語化 (Englishnization) においても注目を集めている企業である。7 月の月例研究会では、この楽天の Englishnization の中心となった English One Team のリーダーである Kyle Yee

氏をお招きし、1) Englishnization のプロセス、2) 社員が直面する問題、3) 大学の英語教育への示唆についてご講演をいただいた。1) および 2) については、TOEIC の点数によってゾーン毎の色分けがあり、なかなか点数の伸びない社員は、業務をやりくりしながら研修を続けていること、カウンセリングによるきめ細やかな対応もあることなど、具体的な話を披露いただいた。3) については、英語力はもちろん、クリティカル・シンキングなど、論理的に考え、意見を述べていく能力が、現在の日本の大学生には欠けているため、その育成が必須であることなどが訴えられた。

この研究会は、JACET 会員以外の参加も多く、また質問も活発で、「社員の英語へのモチベーションをどうやって維持し続けるのか」「実際の英語力の向上をどうやって測定しているのか」など英語力の向上に関する内容から、「英語が流暢でも、文化的な理由などから、英語公用語化に抵抗を感じる社員にはどのように対応するのか」「ここまで英語に比重を置くと、業務に悪影響が出るのではないか」などの、文化やビジネスの視点からも活発な質問が出され、熱い質疑応答が展開された。

日本の経済、ビジネスを取り巻く状況は逼迫しており、実際の「英語使用」に直面する企業ならではの迫力のある話だったが、一方で、大学での「英語教育」の在り方、「教育」と「使用」とのギャップを深く考えさせられる講演でもあった。

青山学院英語教育研究センター・JACET

関東支部共催講演会報告

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第1回）報告■

日時：2013年4月13日（土）15:00-16:30

場所：青山学院大学総研ビル9階第16会議室

題目：英語教育における質的研究の理論と実践

講師：高木亜希子（青山学院大学）

昨年度から、支部会員の学びの機会をさらに増やすために、月例研究会に加えて、共催講演会を実施している。本講演の目的は、英語教育における質的研究の理論と方法について理解を深めることであった。これまで日本の英語教育においては、量的研究が主流であり、質的研究のデザインや方法についてはあまり言及されていなかった。講演者は、質的研究が広まらない理由として、科学的研究でないという誤解、初心者が学ぶ場の少なさ、質的研究方法論の多様さ、質的研究の記述の難しさ、質的研究の審査の難しさなどを理由として挙げた。

研究を行う際、研究者は、理論的立ち位置を明確にした上で、研究計画を立て、目的に合った研究手法を選択する必要がある。量的研究を行う際には、実証主義的視点が前提となっている場合がほとんどなので、研究者の立ち位置について言及する必然性はない。しかしながら、質的研究を行う場合は、立ち位置を明確にしなければ、研究者同士の議論がかみ合わないことが起こりうる。

本講演では、3つの理論的枠組みのうち、解釈的（interpretive）、および批判的（critical）視点に立ち、どのように質的研究をデザインするか、1) 研究課題の設定、2) データ収集の方法、3) データ分析の方法、4) 研究の評価の観点から論じた。質的研究の課題は、何を発見できるかを予測するものではなく、ある方向を示すものである。オープン・エンドなもので、研究のプロセスの中で変化することも受け入れる。研究の参加者は、研究の目的に合った対象者が意図的に選択される。上記に加え、量的研究と質的研究の混合研究のあり方や質的研究と実践研究の関係についても言及した。

講演者の予想に反して、参加者数は多く、活発な質疑応答が行われた。質的研究の広がり

性について希望を見出すことのできる講演会であった。

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第2回）報告■

日時：2013年9月14日（土）15:00-16:30

場所：青山学院大学17号館4階17406教室

題目：発問を中心にリーディング指導を考える

講師：田中武夫（山梨大学）

英語のリーディング指導では、生徒や学生が英文を主体的に読もうとしない、和訳や解説に時間がかかってしまう、テキストの理解がなかなか深まらない、などさまざまな課題がある。田中先生は、これらの課題をいかに解決し、リーディング指導を行っていくべきかを考える糸口として、発問の効果的な活用について研究を行い、複数の著書を出版されている。

田中先生によれば、発問のタイプとして、事実発問、推論発問、評価質問の3つがあり、PISAにおける読解力の要素とも対応している。日本人生徒がなぜPISAの読解テストで、テキストの解釈や熟考・評価にかかわる問題が苦手か考えた際、リーディングの授業で、推論発問や評価発問があまり行われていないからという理由には納得がいった。講演では、実際にリーディングパッセージを使いながら、1st reading、2nd reading、3rd readingにおいて、上記3種類の発問をどのように行えばよいか考察した。最初はつまらなく感じられたパッセージが、生徒になったつもりで、推論発問の答えを考え、参加者の多様な答えを聞いた後では、より興味深いものへと変化した。

発問を中心とした授業デザインを行う際、準備段階として、教材の解釈、生徒の把握、目標の設定も重要である、生徒に推論発問や評価発問をすると、どんな答えが返ってくるか分からない。教師にとっては、柔軟に対応するスキルが必要であるが、正解は1つではないので、英語が苦手な生

徒も、より主体的に授業に取り組むことができるであろう。これまでの自分自身のリーディング指導を反省するとともに、田中先生の実演を参考に、推論発問、評価発問を十分に取り入れた指導をしていきたいと感じた。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長

伊東弥香（東海大学）

関東支部では発足以来、「研究年報」、「学会誌」を刊行してまいりましたが、2013年度より「関東支部紀要（JACET-KANTO Journal）」と改め発行することになりました。JACET本部および支部内で協議を重ねた結果、研究発表と支部活動報告との役割を明確に区分することにより、支部会員のさらなる研究の活性化、質の向上を目指します。その一例として、大学院生や若手研究者の育成も図りながら、投稿原稿を広く募ることにしました。また、様々な研究テーマや研究方法に対応できるように査読システムを導入しました。それぞれの専門領域でご活躍されている会員に査読者登録をお願いし、支部会員で紀要を作り上げていきます。第1号は、7月20日に応募原稿を締切り、現在は査読者による第1次審査、第2次審査など、発行準備を進めています（2014年3月発行予定）。

事務局だより

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会開催のお知らせ■

下記のとおり、共催講演会を実施いたします。多くの皆さまの参加をお待ちしております。詳細は支部HP、支部会員MLでお知らせいたします。

(1)2013 年度第 4 回共催講演会

日時：2013 年 12 月 14 日（土）15:00-16:30
場所：青山学院大学総研ビル 11 階第 19 会議室
題目：ディスコース・ストラテジー：国際論文採
扱へ向けたアカデミック・ライティングの
アプローチ
講師：中谷安男（法政大）

(2)2013 年度第 5 回共催講演会

日時：2014 年 1 月 11 日（土）15:00-16:30
場所：青山学院大学総研ビル 11 階第 19 会議室
題目：第二言語習得研究からみた語彙習得と指導
講師：望月正道（麗澤大）

■2013 年度関東支部役員紹介■

2013 年度の関東支部人事は以下のとおりです。
任期は 2 年です。なお、本部役員につきましては、
JACET 本部 HP をご覧ください。(所属・敬称略)
(2013 年 10 月 31 日現在)

支部長：木村松雄

副支部長：笹島茂

関東支部事務局：高木亜希子(支部事務局幹事)、
伊東弥香(支部幹事)、山口高領(支部幹事)

総務委員会：木村松雄(委員長)、伊東弥香、笹島
茂、高木亜希子、山口高領

財務委員会：佐竹由帆(委員長)

月例研究委員会：藤尾美佐(委員長)、中山夏恵
(副委員長)、山本成代(副委員長)、大崎さつ
き、小張敬之、加藤忠明、河内山晶子、酒井
志延、佐野富士子、中村優治

支部大会運営委員会：山口高領(委員長)、大矢政
徳(副委員長)、鈴木彩子(副委員長)、新井巧磨、
伊藤泰子、遠藤雪枝、大野秀樹、大和田和治、
金指崇、川口恵子、清田洋一、熊澤孝昭、河内
山晶子、小屋多恵子、斎藤早苗、酒井志延、佐
竹由帆、佐野富士子、鈴木政浩、関戸冬彦、田

口悦男、寺内正典、中岡典子、根岸純子、藤尾
美佐、Brian Wistner、古家貴雄、山本成代
支部紀要編集委員会：伊東弥香(委員長)、小田眞
幸(副委員長)、今井光子、長田恵理、高木亜希
子、久村研、星野由子、古家貴雄
広報・通信委員会：下山幸成(委員長)、上田倫史
(副委員長)、安西弥生、合田美子
支部ニューズレター委員会：高木亜希子(委員長)、
下山幸成(副委員長)、斎藤早苗、川口恵子

■住所変更届提出のお願い■

支部会員の皆様に、支部大会のご案内や支部紀
要を確実にお届けするために、転居の際には、
JACET 本部事務局へ住所変更届けを提出してく
ださいませよう、どうぞよろしくお願ひいたしま
す。

■共催講演会の報告について■

10 月 5 日（土）に開催された第 3 回共催講演
会（講師：アレン玉井光江先生（青山学院大学））
の報告は第 2 号ニューズレターに掲載いたします。

JACET-Kanto Newsletter 第 1 号

発行日：2013 年 11 月 11 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 木村松雄）

編集者：高木亜希子、下山幸成、斎藤早苗、
川口恵子

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部英米文学科

木村 松雄 研究室内